

第7次多治見市総合計画
後期計画
2020-2023

共につくる。まるごと元気！多治見

多治見市



第7次総合計画(後期計画)で取り組むまちづくりの基本方針

第7次総合計画(後期計画)では、人口減少が進む中で、「共につくる。まるごと元気！多治見」をキーワードとし、市民、NPO、ボランティア団体、企業、行政など多様な主体が協働し、まちづくりを進めていきます。

女性の活躍と子育て・子育てを後押しする施策、移住定住施策、広域連携による観光誘客を促す施策を推進することでまちを元気にします。また、中心市街地と郊外地域が連携した「ネットワーク型コンパクトシティ※¹」を形成し、持続可能なまちづくりを推進します。地域のすべての人で支え合う気運を高め、ひとの“わ”による市民の活動が活発になるような取組を支援し、地域力の向上を促します。

共につくる。まるごと元気！多治見



5つの政策の柱などにおける、後期4年間で取り組む主な事業

① 安心して子育て・子育てするまちづくり

- 小泉小学校の建て替え
- 食育の拠点となる「(仮称)食育センター」を整備
- 小中一貫教育校(義務教育学校)の設置に向けた調査・研究
- 妊娠期から産後までのサポートを充実
- 仕事と子育ての両立を支援するため医療施設などでの病児保育対応を検討



② 健康で元気に暮らせるまちづくり

- 「多治見市望まないタバコの被害から市民を守る条例」に基づき、健康で安全な環境づくりを推進
- 市民病院の医療体制の充実、産科の開設準備
- 星ヶ台運動公園を整備
- 高齢者の見守り活動を強化
- 療育、保育と教育の連携を図り一体的に支援



③ にぎわいと活力のあるまちづくり

- 多治見駅南地区市街地再開発事業を進め、にぎわいを創出
- 高田テクノパークと第2期高田テクノパークの整備を進め、企業を誘致
- 観光資源のネットワーク化を進め、観光客に魅力のあるまちづくりを推進
- ビジネスマッチング・異業種交流など中小企業の振興支援
- 国際交流協会、企業と教育施設などと連携し、多文化共生を促進



④ 安全・安心で快適に暮らせるまちづくり

- ネットワーク型コンパクトシティ※1の形成
- (都)音羽小田線整備を推進
- あいのりタクシー※2など、郊外地域の移動を支援
- 北消防署の移転整備
- 合葬式墓地の建設

※1 ネットワーク型コンパクトシティ：都市機能を中心市街地に集約させるとともに、郊外地域と中心市街地とをバスなどの公共交通で結ぶまちの形態

※2 あいのりタクシー：地域住民の移動手段を確保する方法の一つ。区や町内会などの団体が主体となって運営し、あいのりを前提で利用するタクシー



⑤ 市民が互いに助け合い学び合うまちづくり

- 地域力向上を図る活動を支援
- 緊急時の情報をアプリや戸別受信機により迅速に提供
- 逆手挙げ方式による避難行動要支援者名簿を活用し、避難対策を推進
- 防犯カメラの設置を検討・整備の推進
- 市民主体の生涯学習活動の充実を支援



政策を実行・実現する行財政運営

- 新本庁舎の建設地を決定し建設
- 公共施設適正配置計画に基づき施設の統合・複合化、転用、廃止等を推進
- セラミックバレー※3を地域ブランドとして広域連携し情報発信
- Society5.0※4の視点から職員の生産性を向上

※3 セラミックバレー：国際陶磁器フェスティバル美濃'17を契機としてつくられた、美濃焼の窯元、商社、関連企業や陶芸家が多く集まる地域の呼称

※4 Society5.0：社会の変革を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望のもてる社会、世代を超えて互いに尊敬し合える社会、一人一人が快適で活動できる社会。IoTやビッグデータを活用することによって、経済発展と社会的課題の解決を目指すことで、より質の高い生活を実現する社会



本市は今後も持続可能なまちになるため、次の視点で前期計画を見直しました。